

メディア情報工学科だより



2010年6月23日 第5巻第1号（通巻第13号） 沖縄工業高等専門学校メディア情報工学科発行

学科近況

本校初代校長の糸村校長が今年3月で退職され、伊東繁校長が4月から着任されました。メディア情報工学科平成22年卒業生33名のうち、22名が就職、11名が進学し、希望の進路に進むことができました。4月4日に入学式が行われ、メディア情報工学科には42名の新生が入学しました。本科1年から5年、専攻科の状況は各学年の話題をお読み下さい。メディア情報工学科には新しく玉城先生が宇部高専から4月に着任されました。玉城先生のプロフィールは先生の紹介記事をご覧ください。同じく4月に太田先生が育児休暇から復帰されました。

（平成22年度メディア情報工学科長：角田 正豊）



各学年の話題（専攻科生）

学級状況について

4月4日に専攻科2期生の入学式が行われ、情報工学コース（メディア情報工学科の教育課程を継続しているコース）には4名の学生が入学しました。情報工学コース2年生5名のうち、2名が就職を希望、3名が大学院修士課程への進学を希望しています。就職希望の2名はいずれも就職先が内定しています。

専攻科の修了生は大学評価・学位授与機構の実施する審査に合格すると大学卒業生に与えられる「学士の学位」と同等の学位が授与されます。学位の申請者は、本科と専攻科での学習に基づき「学修成果」レポートを作成して機構に申請し、学修成果についての小論文試験を受験して合格が判定されます。学位授与申請は10月、小論文試験は12月の予定です。小論文試験は沖縄高専の場合、福岡で実施されます。5月28日に久留米高専の教員を講師に招いて、学位取得に向けての講演会を実施しました。講演会では学位取得までの道筋、学修成果レポート作成の注意点、小論文試験の内容など実践に即した内容が話されましたので、専攻科学生には有意義な情報が得られたと思います。

本年度より数学の苦手な本科1、2年の学生に対して、専攻科1年生がチューター（時給が支払われ

ます）になって補講を行うことになりました。学生は他の人に教えたことの90%を憶えるとの統計があります。人の役に立つだけでなく本人にも利益のあることですので、情報工学コースから多くのチューターがでることを期待しています。

（専攻科情報工学コース長：角田 正豊）



各学年の話題（5年生）

学級状況について

3期生も5年生となり、3ヶ月が過ぎようとしています。進路の状況は別項にて記しますが、就職戦線ではやや苦戦を強いられています。高専においても、今年の就職戦線は買い手市場に傾いていて、（採用する）企業側の思惑に学生が振りまわされている感があります。自分の希望職種・希望業種を見定め、冷静に対応していくことが肝要です。

さて、昨年の学科だよりでも申し上げたように、4・5年生は多くの専門科目が学修単位となり、時間割に余裕が出る反面、レポート等の自学自習課題が多くなります。このため、火曜と金曜の午前中をまとめて、自学自習時間として空けてありま

す。自覚して有効活用してください。

卒研配属について

昨年12月の学科だよりで卒研配属結果の配属先一覧表を掲げました。本年4月に宇部高専より玉城先生が着任され、この配属先を一部変更しました。2人の学生が、玉城研究室に移りました、下図に示します。ご参考願います。

研究室（教員名）	配属学生
角田 正豊	上原 央
	兼城 駿一郎
	幸地 英琳
	宮里 友美
正木 忠勝	上江洲 かれん
	上原 悠輔
	大湾 ちひろ
	田名 俊和
	山内 祥平
伊波 靖	上里 和寛
	小波津 駿
	砂川 昇吾
	仲本 欣司
	新地 彩乃
姉崎 隆	大城 優
	久貝 美奈子
	國場 幸紘
	島袋 竜
西村 篤	奥間 沙織
	奥村 拓也
	喜友名 朝啓
	座間味 愛乃
	グエン ハン
太田 佐栄子	平良 里菜
	玉代勢 幸大
	與那覇 茜
	與那嶺 潤

研究室（教員名）	配属学生
タンスリヤボン スリヨン	島袋 誠也
	津波古 渉太
	渡嘉敷 拓馬
	仲栄真 伸
	比嘉 恵介
玉城 龍洋	兼城 春香
	前當 祐希
鈴木 大作	上原 真矢
	加藤 愛実
	我那覇 隆哉
パイティガ ザカリ	知念 佑奈
	諸見里 圭太
	伊波 真
佐藤 尚	大城 大
	大城 潤
	岸本 拓麻
	金城 天望帝
佐藤 尚	白崎 史子
	新里 ミック
	松川 将也
	大濱 龍之介

（メディア5年担任：姉崎 隆）

就職・進学について

5年生の就職・進学は在学生48名のうち、就職希望が33名(69%)、進学希望が15名(31%)となっています。就職と進学の比率は、昨年とほぼ同じ数値で、他学科に比べ就職希望の割合が多くなっています。就職では、今年の1月頃から就職活動がスタートし、4～5月がピークでこれまでに18名の学生が県内外の企業の採用試験に合格しています。

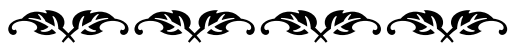
採用試験に合格した企業は、県内ではレキサス、クオリサイトテクノロジーズ、沖縄富士通システムエンジニアリング、沖縄日立ネットワークシステムズ、インデックス沖縄の5社5名、県外ではアイフォーコム、トヨタコミュニケーションシステム、神戸テクノス、協和エクシオ、三菱電機システムサービス、出光興産徳山精油所、NTTネオメイ

ト、アイエックス・ナレッジ、レベルファイブ、富士通アドバンスソリューションズ、日立アドバンスデジタル、コベルコシステムの12社13名です。昨年の同じ時期の合格者数に比べると増加していますが、就職希望者の55%となっています。

一方、15名の学生が進学を希望していますが、沖縄高専専攻科の推薦選抜試験で1名と学力選抜試験で6名が合格しています。3年次編入希望学生では、これまでに、電気通信大学、長岡技術科学大学、九州工業大学の3大学3名(うち1名は専攻科にも合格)が合格しています。

まだ、21名の学生の進路が確定しておりません。保護者の方と連携して進路指導を進めていきたいと思っておりますので、ご協力よろしくお願ひします。

(就職・進学担当：伊波 靖)



各学年の話題（4年生）

学級状況について

本科3年までと4年からでは様々なことが大きく異なります。これは本科3年までを高等学校相当、本科4年以降を大学相当と見なすためです。本科3年までと異なる点としては、朝8時30分から10分間のSHRが無いということが挙げられます。また、学修単位の講義科目が増えるのも特徴的です。学修単位とは、一言で説明するならば、100分の講義を15回行って1単位としていたものを倍の2単位とするものといえます。すなわち、通年科目であれば、前後期合わせて100分の講義を30回行って2単位としていたものが、学修単位の講義であれば、半分の15回で2単位修得できるようになります。そのため、学生には放課後等の空き時間に自ら進んで学習することが求められます。

現在、学生との個人面談を行っています。この面談のための事前調査の結果、今年度のメディア4年生の進路希望状況は、39名のうち就職希望者が26名、進学希望者が11名、そして2名の学生が無回答でした。就職か進学のいずれかを記入した37名のうち、19名の学生は企業名や大学名、職種や仕事内容など、具体的なことを一切書いていませんでした。去年度の同じ時期にも現4年生に対しては個人面談を行い、4年生になるまでに自分の進路について様々なことを調べて、具体的に人に説明できるくらいにしておきましょう、と話しました。しかし、上述の通り、近い将来のことを見据えて、早いうちから考え、準備するということが出来ている学生は

まだまだ多くありません。就職活動は早いところでは冬から始まります。進学の場合、来年の今頃が試験時期（専攻科入試は推薦試験が4月、学力試験が5月の予定）となります。週末に学生がご実家に戻られた際には、ご家族で進路のことについてお話し合いの機会を持っていただけますよう、何卒宜しくお願ひいたします。こちらでも可能な限り学生との面談の時間をもち、サポートしていきたいと思っておりますので、どうぞ、宜しくお願ひいたします。

(メディア4年担任：佐藤 尚)

インターンシップについて

4学年ではインターンシップが必修科目となっています。中心となるのは、夏休み期間中に企業などで就業体験実習を受けることですが、新年度早々からインターンシップ先企業を決める作業を含めた準備がはじまっています。既に過半数の学生がインターンシップ先を決めている状況です。インターンシップは、進学希望の学生にとっても、自分の将来を考える上で、大変有意義な体験になると考えられます。鍵となるのは、インターンシップの目的をよく理解し、各自が意欲的に取り組むことです。インターンシップ先の決定のプロセスにおいては、企業、業界、職種、など様々な条件に関して必ずしも希望通りに行くとは限りません。しかし、最終的には、「インターンシップに行ってもよかった」と学生が心から感じるができるよう、事前の指導・支援を精力的に行っていきたいと考えています。



時代は、変化の規模・速度ともますます大きくなり、先が読みにくくなっています。企業側では、言われたことだけをこなすようないわゆる「会社人間」ではなく、自ら学び、自ら仕事を創出していくような、創造性豊かな人材を求める傾向にあります。また事業のグローバル化に伴い、個々の社員のレベルでも国際競争力を求められるようになってきました。インターンシップという機会を通じて、自分の人生の目標を念頭に置きなが

ら、自らの職業選択を主体的に考えることにチャレンジして欲しいと考えています。ご家庭におかれましても、機を見て「よい人生とはどのようなものか」「人生・生活全体の中で仕事はどのような位置づけにあるか」といったことを是非話し合っていたいただきたいと思います。

（メディア4年副担任・インターンシップ担当：西村 篤）



各学年の話題（3年生）

学級状況について

第3学年は学科別の学級がはじまる学年です。これから卒業まで、基本的に同じ仲間と学校生活を送ることになります。

4月に始まった新しいクラスは、学級委員長や副委員長などのクラスのまとめ役を中心に仲良く日々の学生生活を送っており、これからが楽しいなクラスとなっています。また、4月から編入してきた留学生も新しく加わり、皆不慣れな生活や勉強をサポートしてあげようと温かい雰囲気です。



今年は7月から8月にかけて美ら島総体の開催が予定されており、学校全体でも協力して取り組んでいく予定です。学生たちもカヌーや剣道の競技を中心として補助員という立場で参加して協力していくことになっています。貴重なイベントなので、楽しい思い出となると共に、学生一人一人の成長の機会となることを望んでいます。



第3学年の特徴として、全寮制でなくなるということが挙げられます。寮を出て1人暮らしになる

と、生活が不規則になりやすいため、遅刻や欠課の回数が増えやすくなります。また、食生活の乱れから体調面に支障をきたすことも心配事の一つになってきます。保護者の皆様におかれましては、規則正しく日々の生活を送り、朝からしっかり登校するように、学生に対してお声をかけていただけますよう、宜しくお願い申し上げます。

今年度は5月から6月にかけて、メディア3年の全学生と個別面談を行っています。自分の将来の夢や進路についてしっかりとした考えを持っている学生も少なくありませんでしたが、まだ自分がどのような道に進みたいのか決めあぐねている学生が大半でした。就職を考えているが具体的な職種はまだ決めていない、進学を考えているが何を勉強したいのかどんな大学に行きたいのか分からない、といった状況の学生が多いようです。このように進路について迷っている学生に対しては、一つでもいいので何か積極的にチャレンジして、これは頑張ったといえるものを作るように伝えました。今年度が終わる頃には、少しでも多くの学生が卒業後の進路について具体的に見えているように、できるだけ後押ししていきたいと考えています。

（メディア3年担任：鈴木 大作）



各学年の話題（2年生）

学級状況について

高専の2年生は学校生活にもなれ、定期試験などでも1年生の頃のような緊張感も無くなってくる学年です。卒業までの残り4年間で果てしなく長く感じ、高校に行った中学時代の友達が楽しそうにしているのを見て、自分はなぜ高専に来たのだろうと悩み始める時期です。特に部活をしていない学生にこの傾向がよく見られます。自分の目標を見失うのは自分が他人に誇れることを見失った結果です。2年生のこの時期に部活やコンテスト、趣味、資格試験など積極的に取り組んで欲しいと思います。大学進学を受験勉強が無い高専だからこそ、とことんまで打ち込める環境にあるのではないのでしょうか。

5月12日にLHRの時間を利用して本学科の1、2年の交流会をしました。交流会は2年生が中心となって企画を立て、グラウンドでのドッチボール大会のあと、レストランで一緒になって飲み物とお菓子を食べながら交流をしました。1年生と2年生の学科の先輩、後輩としての交流ができたのではないかと思います。同様の企画は後学期にも予定しています。



1、2年生交流会（5月12日）でのドッジボール
（メディア2年担任：正木 忠勝）



各学年の話題（1年生）

学級状況について

1学年は入学してから早くも3ヶ月が経過いたしました。親元を離れての集団生活や専門的な科目の講義、初めての中間試験、課外活動などぎっしりと新しいことの連続で、あっという間だったのでないでしょうか。緊張、不安、そして期待、気持ちも激しく揺れ動いたでしょう。それでも最近では少しずつ慣れてきたようで、心なしか学生の顔に少し余裕が出てきたように感じられます。

辺野古周辺は豊かな自然あふれるところですが、学生からみると辺鄙でそれほど魅力があるとは思えないかもしれません。しかし、学習、スポーツなど多方面において、これほど環境が整っているところは少ないでしょう。学生のやる気と好奇心次第で、素晴らしい高専生活になると確信しています。

学生生活はまだ始まったばかりで、これからの道のりは長く長いです。常に全速力で走っている途中で息切れをしてしまいます。「ON」「OFF」

をうまく切り替えながら自分の目標に向かっていきましょう。途中で目標を見失いそうになったり、つまづきそうになった時は遠慮なく助けを求めてほしいと思います。

（メディア1年担任：バイティガ ザカリ）

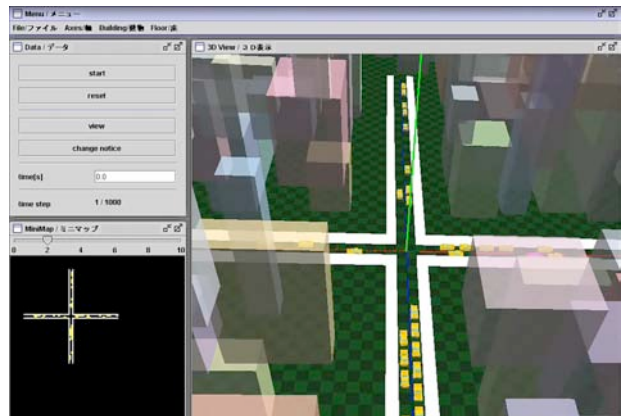


新任教員紹介

玉城龍洋 准教授

4月よりメディア情報工学科・准教授として着任しました玉城です。名前からも分かるように県出身で、15年ぶりに沖縄に帰ってきました。講義は2年生のC言語や3・4年生のアルゴリズムとデータ構造など、プログラミングに必要な基礎的技術を中心に担当しています。

専門は情報工学と交通工学で、特に自動車の交通流について研究しています。交通流という言葉は聞きなれない言葉だと思いますが、これは道路を川、自動車を水と考えたときの自動車の流れのことです。簡単に言ってしまうと渋滞について研究しています。渋滞は運転手の技能や交通規則に縛られない一定の法則を持った物理現象としての側面を持っており、観測すると興味深い現象が現れます。渋滞解析は、実際に多数の車を走らせて実験することは難しいため、私はコンピュータを使った数値シミュレーションをしています。



コンピュータ上での交通流シミュレーション

3月までは山口県の宇部工業高等専門学校経営情報学科で働いていました。宇部高専は国立高専第一期校のひとつで、設立から48年もたつ歴史のある高専です。「日本さくら名所100選」に選ばれている常盤公園のすぐ隣にあり、常盤公園で飼われているペリカンが校内に飛来することもあります。人懐っこいペリカンで、鳥を手で撫でるといった貴重な体験をしてきました。また、私が所属していた経営

情報学科は名称に「工学」が無いことから分かるように全国高専の中で唯一の文系学科でした。

沖縄高専と宇部高専との違いはいくつかありますが、沖縄高専にきて最初に感じたことはすれ違う学生が元気よく挨拶をすることです。また、校舎や施設が新しく、設備が整っていることにも驚きました。このように素直で優秀な学生と整った設備がある沖縄高専は学び舎として非常に優れていると感じています。私もこれまでの経験を活かし、ライバルとなる他高専のことや本土のことを学生に伝えつつ、学生とともに頑張っていきたいと思しますので、どうぞよろしくお願いいたします。



その他の学科内の話題

資格試験について

4月18日に行われた国家資格である情報処理技術者試験にメディア情報工学科からITパスポート試験に31名、基本情報処理技術者試験に34人が挑戦しました。その結、ITパスポート試験は3名、基本情報処理技術者試験は8名が合格しました。おめでとうございます。合格者は次の通りです。【ITパスポート試験】平良優乃(4年)、佐久田瑞己(3年)、比嘉康晴(3年)【基本情報技術者試験】島袋誠也(5年)、山根誓史(4年)、久米剛弘(4年)、澤岨祐貴(4年)、清末尊(4年)、稲福智秀(4年)、前野粒子(3年)、日熊悠太(2年)
(資格試験担当：正木忠勝)



編集後記

「メディア情報工学科だより」は、1学年以上の学生をお持ちのご家庭を対象に、年2回（6月と12月）発行している学科通信です。ご意見ご要望がございましたら、是非下記連絡先までお知らせ下さい。また、学校に対してお持ちの疑問・要望や他の保護者の方々にも知って欲しいことなどを投書して下さることも大歓迎ですので、是非お気軽にお便りをお寄せ下さい。

【編集担当者連絡先】

〒905-9021 沖縄県名護市辺野古905番地

独立行政法人 国立高等専門学校機構

沖縄工業高等専門学校 メディア情報工学科 佐藤 尚

TEL: 0980-55-4003 (代) FAX: 0980-55-4012 (代)